

ひがしぼうじょう

3. 東坊城のホーランヤ

- (1) 文化財の所在地 な ら けんか しはらし ひがしぼうじょうちょう 奈良県橿原市東坊城町
- (2) 保護団体 ほうさんかい ホーランヤ奉賛会
- (3) 公開期日 8月15日
- (4) 文化財の概要

①文化財の特色

日本の各地には、火の呪力によって諸種の災厄を取り除き、幸福を祈願するような大火を焚く行事がみられる。そのなかで、本件は正月と対比される盆の火焚き行事であり、かんぼつ 旱魃、虫害、疫病などをもたらす死霊や疫神を除去するなどの精霊送りの要素を伝えている。本件と類似する松明を用いた火祭りは近隣にもみられたが、現在は伝承が途絶えており、奈良県下でも希少な伝承例として注目される。

②文化財の説明

東坊城のホーランヤは、奈良県橿原市東坊城町の春日神社と八幡神社に伝承される盆の火祭りである。燃えさかる巨大な松明を担いで境内を練り歩く行事で、毎年8月15日に行われる。行事の担い手は、東坊城町と隣ふるかわちょうの古川町で15歳以上の氏子の男性が中心になる。現在は、ホーランヤ奉賛会によって行事が伝承されている。

行事の日は、早朝から松明が作られる。各地区に男衆が集まり、おお大松明に加えてやく役松明という小さな松明を準備する。松明の材料は、菜種殻、小麦藁、笹、青竹を使う。松明の大きいものは、高さ約3メートル、直径約2メートル、重さ約500キログラムにもなる。

行事の日の午前中に各地区で作った松明は、午後になって男衆が神社に運び込む。松明行事は先に春日神社で行い、次に八幡神社でも行う。行事が始まると、松明は境内で順に担がれ燃やされていく。役松明の場合は氏子が一人で担ぎ、火をつけて境内を周回する。一方で大松明は、浴衣姿の氏子たちが大勢で担いで回る。氏子たちが「エッサーホイサー」の掛け声に合わせて燃えさかる大松明を担ぎ、境内を練り歩く。担ぎ終えた松明は、順に境内の中央に立て置いて燃やし続け、神前に奉納される。



【境内で担がれる大松明(八幡神社)】



【役松明の奉納(春日神社)】